

各地の遺跡の 最新情報収集

県立歴史館 春季展へ勉強会

富士見

県立歴史館(千曲市)は、開館30周年を記念して同館で来年3月から始める春季企画展に向けた勉強会を県内各地で開いている。8日は富士見町の歴史民俗資料館で開き、諏訪、上伊那地域の市町村の文化財担当者ら19人が参加。各地域で確認されている遺跡を時代ごと確認し、意見や最新情報を収集した。

県立歴史館は県内各地に発掘された古墳時代までの遺跡をテーマに、春季企画展を計画。館蔵資料を全県偏りなく特徴的な遺物を展示する方針や、県内で発掘調査をした遺跡をまとめる県史を発行すること

とから、県内77市町村の担当者から意見を聞く勉強会を開いている。5月は木曾地域、6月には飯田下伊那地域で行った。会では県立歴史館学芸部の町田勝則さんが、諏訪、上伊那地域で見つかった遺跡の年表を使い、市町村ごと解説。遺跡がない空白の期間を中心に、新たに見つかった遺物の有無や発見されていない理由を担当者に聞いた。

弥生時代では、富士見町と原村で遺跡が見つかっていない点に着目。富士見町は「人が町を通った形跡はあるが、集落として成立していない」、原村は「高地で水の確保がで

きなかったのでは」との見解を示した。他にも市町村ごと各年代の代表的な遺跡を一つずつ確認していった。

町田さんは「集まった意見を参考に、県史の発行や企画展の準備を進めたい」と話した。(濱翔真)



諏訪、上伊那地域の遺跡を確認し、意見交換をした県立歴史館の勉強会